

## 第3章

# 地球市民学

櫻井 芽衣子・長瀬 加代子・佐藤 愛子  
三小田 博昭・原 順子・中村 明彦

### 前期「多文化コミュニケーション学」

#### 1. 目標

本授業の目標は、自己及び他者を知り、コミュニケーションの質を高めることである。異なる文化圏の相手とのコミュニケーションというと、外国語話者をイメージ

するかもしれないが、同じ日本語話者であっても、異なる文化的背景を持っていることがある。「文化」とはどのようなものかを知った上で、自己と他者を客観視し、よりよいコミュニケーションを図るための知識を、名古屋大学文学部・文学研究科の齋藤文俊教授、名古屋大学教育学部の高井次郎教授による講義で学んだ。また、名古屋大学の留学生を招き、実際に異文化コミュニケーションを体験した。

#### 2. 実践内容

回	実施日	授業内容	中心テーマ
1	4月17日	オリエンテーション・見える文化、見えない文化	文化
2	4月24日	本校教員による授業「文化がちがうとは？」ワークショップ	異文化コミュニケーション
3	5月1日	本校教員による授業 異文化をサバイブする ワークショップ	
4	5月8日	名古屋大学・齋藤文俊教授の講義 日本人同士の「異文化コミュニケーション」	異文化としての日本語方言
5	5月20日	名古屋大学・高井次郎教授の講義「文化とコミュニケーション」	異文化コミュニケーション
6	5月29日	本校教員による授業 非言語的コミュニケーション	非言語コミュニケーション
7	6月5日	本校教員による授業 パラランゲージ	日本語における非言語 コミュニケーション
8	6月12日	留学生とのディスカッション・準備	異文化コミュニケーション の実践
9	6月26日	留学生とのディスカッション・準備	
10	7月3日	留学生とのディスカッション	
11	7月10日	ディスカッションのまとめ・レポート作成に向けて	
12	8月28日	発表の準備	学習全体のまとめ
13	9月11日	小グループでのレポート発表会・その1	
14	9月18日	小グループでのレポート発表会・その2	
15	9月25日	全体発表会とまとめ	

#### 3. 成果と課題

同じ日本語文化圏であっても、場合によっては多文化コミュニケーションになるということを実感できた生徒が多かった。留学生とのディスカッションでは、相互の

違いを意識するとともに、自文化とは異なる文化を尊重し合う様子が見られた。世界的な規模に限らず、身近な人とのやりとりにおいても、適切に意見を伝え合う姿勢を身につけることができた。

## 後期 情報と社会>共生と平和の科学

どもたちを垣間見ながら自分たちの今の生活を振り返る。

### (1) 目標

#### 1) 講座の目標

地球上の諸問題を多元的な視点から探究し、地球市民として何が出来るかを科学的に学ぶ。

#### 2) 各グループの目標

①子どもの人権：子どもの人権に焦点を当て、世界の子ども

②ジェンダー：ジェンダーの視点で、差異のある集団が共生していくにはどうすればよいかを考える。

③貧困と国際協力：「貧困」「国際協力」という課題に向き合い自分たちがやるべき協力活動を探る。

### (2) 学習方法

PBLによる課題発見、課題解決学習ゼミ方式。

### (3) 実践内容

#### 1) 授業計画

回	子どもの人権	ジェンダー	貧困と国際協力
	【 導 入 】		
1	共生と平和の科学とは (佐藤先生)		
2・3	仮説に基づく情報処理能力の育成 (大谷教授)		
	【 仮説を立てる 】		
4・5	担当教員プレゼンテーション・グループ分け・マインドマップで仮説を立てる		
	【 展 開 】		
6	子どもの権利条約	性差別の変化 (佐藤先生)	援助は誰のため何のため
7	幸せを測るものさし (貧困と合同)	性差によるらしさと好ましき	幸せを測るものさし (子どもと合同)
8・9	メディアリテラシー発表会	メディアリテラシー発表会	協力援助活動で気をつける点
10・11	効果的な援助とは	ノルウェーの教科書・PA	自分のやりたい協力活動
12・13	ディベート準備・大会	ディベート準備・大会	ディベート準備・大会
	【 ま と め 】		
14	スピーチ大会の準備	スピーチ大会の準備	スピーチ大会の準備
15~17	スピーチ大会 (混合小グループで) ⇒代表スピーチ大会		

#### 2) 課題と評価計画

- ①ワークシート (10点×2回)：各グループの授業は、その日の課題に沿ったワークシートで行う。その内容を仲間と話し合い、話し合いに参加している様子と。授業終了時に集めるワークシートで採点する。
- ②マインドマップ (10点)：各グループのテーマをセントラルイメージにして、テーマから考えられる「問題」をマインドマップに書き出す。マインドマップと話し合いで採点する。
- ③冬休みの課題 (10点×2回)：冬休みにメディアリテラシーに関して、ポスターを作る課題を出す。休み明けに発表をし、ポスターと時間内に伝えられたかで採点する。
- ④ディベート (10点×2回)：指定された論題をディベ

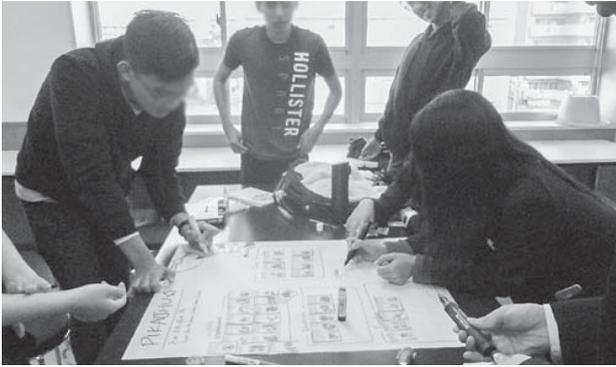
ートを通して議論する。ディベートを行うための準備で作成するシート、役割に沿った参加の様子、振り返りシートで採点する。

⑤スピーチ (10点×2回)：後期のまとめをスピーチをする。まとめる内容は、マインドマップで見つけた「問題」に対して取り上げた理由と、授業を通して考えた解決方法である。構成シートとスピーチでいかに主張が伝わったかで採点する。

### (4) 成果と課題

グループ学習と個人学習の組み合わせにより、より多様な考え方や解決方法を探ることができた。(学習方法の成果) 授業計画と、評価計画を事前に生徒に公表した。

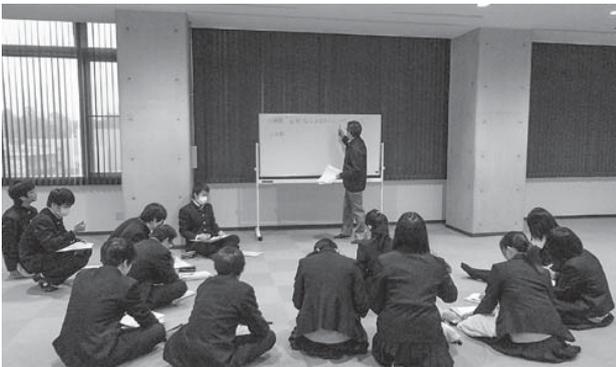
評価を事前に明確にしたため、提出される文面から真剣に取り組んだことがわかる。



子どもの人権の授業風景



ジェンダーの授業風景



貧困と国際協力の授業風景